

ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部義肢装具学科
名前 敦賀 健志
作成日 2024年2月26日

【責任】 義肢装具学科において、主に工学に関する科目を担当している。具体的には義肢装具材料学、義肢装具材料力学、動作解析工学演習Ⅰ・Ⅱ、リハビリテーション工学、機械設計概論、電子工作演習など16科目である。また、卒業研究におけるゼミ生の指導や国家試験対策も担っている。さらに校務として学科長を、課外活動ではソフトテニス部顧問を務めている。

【理念】 義肢装具とは失われた手足の代わりとなる義肢と、病気や怪我などの治療や症状の軽減を目的とする装具を併せた言葉である。それらは利用者の助けとなり、生活様式を大きく改善する可能性を秘めている。これらに携わるためには、まずは安全で安心できる義肢装具を提供できる義肢装具士になってもらいたい。必要な専門知識や技術は多々あるが、義肢装具は利用者の身体に直接触れ、支える用具であることから、工学的な知識を十分に習得する必要がある。

また、義肢装具の種類は多種多様で有り、利用者の身体的状況や生活様式も千差万別であることから、提供する義肢装具には必ずしも正解が一つとは限らない。故に、利用者の生活をより良くするためには、常に向上心を持ち、自分で問題を発見し、解決できる能力を身に付けて欲しい。

さらに、義肢装具士は同じ利用者と関わる期間が長くなることも多く、その中で利用者の状態を的確に把握するためには、利用者との信頼関係が重要となる。信頼関係の構築には、学術的な知識の習得のみならず、ヒトとしての倫理観やマナーなどが重要であるので、期日を守るなどといった基本的な生活習慣も身に付けて欲しい。

【方針・方法】 工学の知識を十分に習得し、安全で安心な義肢装具を製作するために「復習の実践による知識の定着」、「授業時間に集中して取り組んでもらう」、「本質を理解する」という方針で教育を行っている。また、常に向上心を持って取り組む姿勢を身に付けるために「主体的な活動による気づきの促進」、信頼される義肢装具士となるために「規律ある生活習慣を身につける」という方針で教育をしている。

「復習の実践による知識の定着」

- ・授業の最初に前回の授業内容に関する小テストを行うことで、復習を実践するように促す。また、小テストは次回の講義の際に返却し、正解だけでなくクラス内の得点分布や正答率を示すことで、学生自身の状況を確認させている。

「授業時間に集中して取り組んでもらう」

- ・講義資料を配付し、学生自身に書き込ませることで、重要な部分を認識させ、授業を聞くだけの受け身の姿勢を改善させる。また、学生が書き込みを行っている際に、説明を行っても記憶に残らないので、書く時間と説明の時間は切り分けるようにしている。さらに、授業中、適宜、講義内容を確認する問いを投げかけることで気持ちをリフレッシュさせ、再度、集中して授業に取り組めるよう配慮している。

「本質を理解する」

- ・教科書に載っている図では、具体的な状況をイメージし難い場合は、関連する動画を引用したり、シミュレーションソフトを用いて状況を再現するなど、視覚的に仕組みなどを提示することや体験を通して理解を促し、見た目の印象や勘ではなく、物事の本質を理解しやすいように配慮している。また、講義資料の作成や説明については、論理性や整合性を意識して行うことで、理解のつまずきをなくすようにしている。

「主体的な活動による気づきの促進」

- ・知識の定着において、他者へ説明するという行為は効果的であると言われている。そこで、可能な限りグループワークなどを実践することで、理解の深化や新しい気づきを促すように配慮している。

「規律ある生活習慣を身につける」

- ・授業の開始・終了時間を守ることや課題の提出期限を厳守する、さらには言葉遣いなど他者との関わりにおけるルールやマナーなどを教員自身が体現することで、義肢装具士としての倫理観の形成を促している。

【成果・評価】

- ・グループワークを取り入れた科目において、小テストの平均点が前年度と比較して向上した。
- ・授業改善のためのアンケートで、「この授業を意欲的に取り組んだ」、「この授業から新たな興味や問題意識を持つことができた」といった項目で高評価を得た。
- ・他の教員からスライドの内容が、丁寧な作り込みで、わかり易いという評価を得た。
- ・学生から国家試験対策用にまとめた工学分野の資料が、わかり易かったという評価を得た。

【目標】 短期目標としては、2024 年度中に、アクティブラーニングやルーブリック評価などの研修会に参加して、方法論などを学ぶ。また、授業アンケートに独自の質問項目を追加する。2025 年度中に、理解しやすい授業を展開することで、学生の理解を深化させ、C 評価で合格する学生数を減らす。国家試験の模擬試験において、工学分野の得点率を他の分野と比較して上位となるようにする。

長期目標としては、経験や勘のみに依存せず、論理的な思考に基づいて義肢装具を製作・提供できる義肢装具士を育成する。